



Un Concert de Piano Excentrique '1999

~ こだわりのあるピアノ弾きと その仲間達による大演奏会 ~

Υν Χονχερτ δε Πιανο Εξκεντριθυε 1999.

Τηανκ ψου περψ μυχη φορ σπαρινγ ψουρ πρεχιουσ τιμε το
χομινγ ηερε τοδαψ. Ωε αλλ ηαπε βεεν λοοκινγ φορωαρδ το γιπε
τηισ χονχερτ ον τηισ γρεατ δαψ. Ωε ωουλδ βε γλαδ ιφ ψου χουλδ
σεε τηε εφφορτ ωηιχη εαχη οφ υσ ηασ μαδε ανδ τηε δεπελοπμεντ
οφ ουρ σκιλλσ. Ωε ωιλλ πλαιψ πιεχεσ τηατ ωε λικε το πλαιψ.
Ενφοψ τηεμ ιν ψουρ μινδ ανδ ιμαγινε ασ ιφ ψου ωερε λιστεν
το α λιττλε βιρδεσ ωηισπερ.



1999年9月11日 (土) 13:00開場、13:30開演

かつしかシンフォニーヒルズ・アイリスホール

本日はお忙しい中、ご来場いただき誠にありがとうございます。ピアノが200年を超えて人々の心を虜にする...ピアノの面白さは、黒鍵の配置や音の響きなど、奥深いところがある。最近のインターネットの発展や、新しいメディアが登場してきているように、音楽の楽しみ方も多様化し、前にも増して非日常的な体験が求められているように思います。組織や年代の垣根を越えてピアノ好きの有志が集い、「弾きまわろう！」といった全くの素人でも楽しめる演奏会を実現することとなり、「Un Concert de Piano Excentrique」という意味です。普通大学のピアノサークルで自分の趣味を追求してきた人、音楽大学で体系的にピアノを勉強してきた人、様々なフィールドから集まったメンバーそれぞれが思い思いのレパートリーを熱く演奏します。

アルカンに始まり「美しく青きドナウ」まで、今もって何かしらの「こだわり」を持ち続けるピアノ弾きとその仲間たち17組による闊達な演奏で、「こだわりのコーヒーを味わうがごとく」気の向くままに、このホットな時代のピアノ音楽、ピアノ演奏を満喫して頂ければ幸いです。

アルカン / 大ソナタ 4つの時代」第一楽章 20代」
Alkan / Grande Sonate 'Les Quatre Ages' op.33 20 ans.

吉川 恵太
早稲田大学シヨパンの会

曲目紹介
 Alkan (1813-88) は芸名で、Charles Henri Valentin Morhange が本名である。パリを中心に活躍。リストやショパンとも交流があったが、内気な気質と人間嫌いな性格とから、長い間、隠遁的な生活を送っていた。アルカンは作品の源泉をベートーヴェンやメンデルスゾーンに求め、その作品の奇抜さが興味を引く小品も多い。父親に捧げられた「大ソナタ 4つの時代」は、4つの楽章に遅くなるテンポ（「月光」ソナタの逆）が異色である。

プロフィール
 早稲田大学理工学部応用物理学科3年。趣味でピアノを弾いていた父の影響で、3歳より自らピアノを始める。幼稚園入園時、楽譜は読めたが五十音（あいつえお）を覚えておらず、両親をととても心配させたのは記憶に新しい。現在まで中断することなくピアノを続けている。

メッセージ
 他の出演者が素晴らしい演奏をなさる方々ばかりなので、なぜ自分がこの場にいるのか不思議です。いい機会なので、音楽仲間を増やしたいです。

プロコフィエフ / ピアノソナタ 第1番 Op.1
Prokofiev / Piano Sonata No.1 Op.1

笹倉 優子
慶應義塾大学ピアノクラブOG

曲目紹介
 雷鳴の轟きのような左手の半音階下降音型で始まるこの曲は、プロコフィエフの若々しい情熱がほとれる。冒頭の C - F - C - D e s のモチーフが様々な変形を加えられ、最後まで繰返さずの鋼鉄のような強靱なタッチと、柔らかく歌い上げるフレーズが交互に表れる。ロシア・ピアノリズムの伝統を継承しつつも、ピアノの新しい可能性を切り拓こうとする意志が曲全体に漲っている。

プロフィール
 1997年慶應大学文学部修士課程修了。現在、晃華学園中学高等学校で教鞭をとる。S・バーンスタイン著「心で弾くピアノ」で、演奏と人格形成の影響関係について、意義深い実践を読み、アマチュアとしてピアノを続ける上で、大きな指針を得た。学校で生徒達とアンサンブルやコーラスをするのが趣味。

メッセージ
 デリヘルの生涯を綴ったドキュメンタリー「謎（エニグマ）」は「プロコフィエフを聴こう」という言葉で始まった二人の音楽家の親交は広く知られている。二十世紀が終わりを迎えようとする今、前衛的な時代を生き抜き、偉大な業績を残した二人の巨匠に敬意を表して演奏したい。

ショパン / ピアノソナタ 第3番 1楽章

Chopin / Piano Sonata No.3 Op.58 1st Mov.

小清水 香織
慶應義塾大学ピアノクラブOG、ピアノ三田会

曲目紹介

ショパンはこの曲を、1844年、父の死の悲しみの中で、また自分の健康状態が悪化する中で書き上げた。この曲には古典的なソナタ形式の統一性が見られるが、その枠を越えて、彼のダイナミックな宇宙観が表現され、歌いすぎてしまいそうな美しい旋律は、この曲を豊麗な音楽に仕上げている。

プロフィール

1994年、慶應大学文学部(美学美術史学)卒業。現在、都内の国際特許事務所に勤務。好きな演奏家：リパッティ、グールド、アルゲリッチ、ツィマーマンなど。今後は、ソロだけでなく、音楽仲間を増やして、ピアノトリオや他の楽器とのアンサンブルをたくさん楽しむことが目標です。

メッセージ

ショパンのソナタ3番は私にとって昔からの憧れの曲でした。特に1・4楽章が大好きで、リパッティの演奏したCDを繰り返し聴いていました。でもいざチャレンジしてみると、難関ばかりでなかなか思うように弾けず、もどかしい思いの中で練習してきました。今日は一箇所でも多く、彼の音楽らしく表現できるように演奏したいと思っております。

ショパン / ポロネーズ八短調 Op.40-2, マズルカ 八長調 Op.24-2

Chopin / Polonese Op.40-2, Mazurek Op.24-2

パデレフスキ / <ポーランド舞曲集>より クラコヴィアク Op.5-3

Paderewski / Krakowiak Op.5-3

津原和典
早稲田大学ショパンの会

メッセージ

こだわりのある大演奏会のマニアなプログラムで私が皆様だけにこっそり聴いていただく"こだわりの"は、ポーランド舞曲です。といっても実際のオリジナルの舞曲ではなく、それをヒントに自分のファンタジーを繰り広げた二人、ショパンとパデレフスキの作品を弾きます。ポロネーズ、マズルカ、クラコヴィアクはポーランドを代表する舞踊で、ショパンの作品によって広く認知されています。しかし形式としては有名でも実際の舞踊を見る機会は稀です。またポロネーズは元来歌を源泉にもつものなので、ポーランド語のアクセントや語調が深く関わっています。これもしかし、ポロネーズは手軽には語れない厄介な言語です。ということでポロネーズの舞踊もラクではないのです。幸いポロネーズとクラコヴィアクを習ったので私も舞踊の様子や雰囲気や伝わる演奏にしたいです。(東京外語大学4年)

ベートーヴェン/ピアノソナタ第28番イ長調 作品101

Beethoven:/ Klaviersonate Nr.28 A-dur op.101

角 葉子
武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒

曲目紹介

この曲はベートーヴェンの一連の後期様式ソナタの最初となる作品で、1816年夏、滞在先のバーデンで完成された。この年の春、連作歌曲「はるかな恋人に op.98」を完成させたベートーヴェンは、この2曲に共通する循環形式をもってそれまでの創作上のスランプから脱し、新しい構成原理のもと、晩年の孤高ともいわれる巨匠様式への第1歩を記したのである。この2つの作品を意図的に意識して、シューマンが、当時思っように会うことができなかったクララを想い「幻想曲八長調 op.17」を作曲したことは、よく知られている。

プロフィール

1993年、武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。卒業後(株)山野楽器を経て、現在第一生命保険(株)に勤務。在学中の4年間声楽の伴奏にはまり、卒業後独学でイタリア語を学び、毎年の上つに外來のオペラを鑑賞するが、今年あたりようやく落ち着いて、地元の音楽協会で演奏活動する傍ら、しばしばお休みしたオペラアリア(ブッチーニ専門!)やイタリア歌曲も歌い(?!?)始めた今日この頃・・・。

メッセージ

ベートーヴェンは私の一番好きな作曲家で、数年前のウィーン旅行と横浜アリーナで第九を歌ったことが、それまでの彼の作品に対するアプローチの仕方を、大きく変えるきっかけとなりました。この頃この曲を勉強し始めて、今またあらためてこの晴れ舞台で、彼の孤高の精神を感じながら演奏できれば、と思います。

**バッハ / ブランデンブルグ協奏曲第5番 二長調 BWV1050
J.s.Bach / Brandenburgisches Konzert Nr.5 BMW1050**

ピアノ 本間 健将 (慶應義塾大学ピアノクラブOB)
フルート 田中 敦子
ヴァイオリン 土屋 修、平野 義彦、遠藤 昭、本間 由美子
ヴィオラ 古谷 仁、平野 雅子
チェロ 藤波 忠、門前 雅拓
コントラバス 門前 雅拓

曲目紹介
第1楽章 : アレグロ
第2楽章 : アッフェットーオーソ
第3楽章 : アレグロ



ブランデンブルグ協奏曲第5番は、バハの代表作として知られる。この曲は、バハの晩年に書かれたもので、その音楽は、当時の音楽界に大きな影響を与えた。この曲は、バハの音楽の精華を凝縮したもので、その音楽は、当時の音楽界に大きな影響を与えた。この曲は、バハの音楽の精華を凝縮したもので、その音楽は、当時の音楽界に大きな影響を与えた。

プロフィール
慶應大学ピアノクラブOB本間他、某楽器会社社員中心の11人編成です。全員が揃って弾くのは本番が初めてといった綱渡りユニットですが、それぞれキャリアとこだわりを持ったメンバーです。

**モーツァルト / ピアノソナタ 第8番 二長調 K.311
Mozart / Klaviersonate Nr.8 d-dur K.311**

白石 潤一
東大ピアノの会OB

曲目紹介
モーツァルトのピアノソナタ第8番は、その音楽の精華を凝縮したもので、その音楽は、当時の音楽界に大きな影響を与えた。この曲は、モーツァルトの音楽の精華を凝縮したもので、その音楽は、当時の音楽界に大きな影響を与えた。この曲は、モーツァルトの音楽の精華を凝縮したもので、その音楽は、当時の音楽界に大きな影響を与えた。

プロフィール
東大ピアノの会OB。東京大学大学院数理科学研究科助教授。

メッセージ
趣味の上でも仕事の上でも200年前の出来事を追いかけざるを得ないのは、全く妙だと思う。

モーツァルト / ピアノ協奏曲第13番八長調K.415

Mozart / Klavier Konzert Nr.13 C-dur K.415

Pf : 光山 奈保子 (東大ピアノの会OG)
 1st Vn : 富田 貴久 (東大室内楽の会OB)
 2nd Vn : 富田 京子 (御茶ノ水管弦楽団OG)
 Va : 古川 隆久 (東大フィロムジカ室内楽の会OB)
 Vc : 酒井 潤 (東大フィロムジカOB)

曲目解説・メッセージ
 「モーツァルトのピアノ協奏曲のピアノ五重奏版を弾く」と言っていると、必ずと言っていいほど「へえ〜、誰の編曲？」と訊かれますが、何を隠そう、これはモーツァルト自身の編曲です。第一楽章の出だし、誰が思えば、それはひとえに私達演奏者の責任です・・・」
 「オーケストラのごとく華やかな響きが展開されますが、もともと五重奏曲だったのではないかと感じるのは、違和感のない仕上がりになっています。なっつてはいますが、みなさまのお耳にそう聞こえなければ、それはひとえに私達演奏者の責任です・・・」

スクリャーピン / ピアソナタ 第5番 Op.53

Scriabin / Piano Sonata No.5 Op.53

田中 博幸
 慶應義塾ピアノソサイエティー

曲目紹介
 私はお前に生命を与えよう、おお、神秘的な力よ、創造の精神の暗い深みに沈み、生命の不安げな影よ、私はお前に勇気をもたらす(作品の冒頭に書かれた詩より)。ショパンやリストの影響を受けて始まった初期の作品と、神智学と出会ってからの後期の神秘的独自語法な作品との橋渡しの存在とククな主題が交錯して発展していき、最後には華麗なコーダで突然終止する。

プロフィール

現在、慶應義塾大学経済学部4年に在学中。幼少よりピアノを始め、趣味として続けながら現在に至る。佐久間訓子氏に師事。慶應義塾ピアノ・ソサイエティーに所属し、現在は学生責任者を務める。97年夏にはシンガポールでの文化交流演奏会に参加。
 ピアノ・ソサイエティーホームページ：<http://kps.hey.to/>

メッセージ

気づいたらこの曲の虜になってしまいました。といっても私は怪しいものではありません。純粋に音楽・ピアノの響きを愛する学生です。この曲の和音の響き！みなさんはどう感じられるのでしょうか。弾き終えたときには、作曲者が計画していたように昇天できればいいなと思っています・・・。

個人ホームページ：<http://www.cc.rim.or.jp/~hiro105/music/>

リャプノフ / 12の超絶技巧練習曲より第10番 レスギンカ(バラキレフ調)

**Liapunov / Lesghinka(Style Balakirew),
 from 12 Etudes D'execution Transcendante(No.10)**

長岡 ゆり
 慶應義塾大学ピアノクラブOG

曲目紹介・メッセージ
 大学の頃から弾く曲の趣味が悪く、今回も筋金入りの趣味の悪い曲を選んでしまいました。そろそろ真面目な曲が弾けるようになってほしいと思いつつ、約週1度のピアノに向かう貴重な時間を、マイチーメンな編曲物やゴドラスキーなどを弾いて過ごしています。
 セルゲイ・リャプノフは、「リャプノフ指数」で有名な数学者リャプノフの弟で、バラキレフの「イスメイ」をオーケストラ編曲したり、リストの超絶技巧練習曲の続きを作ったりした、変わった人です。「レスギンカ」はこの超絶技巧練習曲の中の1曲で、他の曲はリストに酷似しているのに対し、この曲は「バラキレフ」の補足通りバラキレフによく似ています。リャプノフの他にもピアノ曲をたくさん書いており、コンチェルトなども存在するようですが、ほとんどは楽譜が手に入らないと言われています。リャプノフについて<http://www.serv.net/~liapunov/>に詳しい情報が書かれています。

リスト / ピアソナタ 口短調 より第3部

Liszt / Piano Sonata in B-minor 3rd mov.

後藤 由衣子
桐朋学園ピアノソナエディー

曲目紹介
楽曲の着想は、ピアノ技法の面ばかりでなく、楽曲の構成面でも、ロマン主義的な特色をもつとも顯著に発揮された単一楽章構成の中にも、ソナタの各楽章の要素を採り入れた独特の様式をもち、特に主要な主題が全曲にわたって用いられる。いわゆる循環形式でかかれた典型的な作品で、第3部は再現部にあたる部分とコーダ。コーダは緩叙楽章部も含めて既出のすべての主題を取り扱う。

プロフィール
6歳でピアノをはじめ。桐朋学園大学附属音楽教室、桐朋女子高等学校音楽科を経て、現在桐朋学園大学音楽学部4年在学中。桐朋学園ピアノ・ソサイエティー学生責任者。

メッセージ
最近、私にとってのピアノが、少しずつわかりはじめた気がします。

ヨハン・シュトラウス=シュルツ・エブラー / 美しく青きドナウのテーマによるアラベスク
Johann Strauss=Schulz Evler / "Arabesken an der schoenen blauen Donau"

高田 寛
東大ピアノの会OB

曲目紹介・メッセージ
この曲は、19世紀末から今日にいたるまで、脈々ともとの受け継がれてきた一連の「華麗なる演奏会用のソナタ」のナゼラマン等（ワグネル）が手にはせないのであるが、この曲の演奏を通して、この曲の演奏を通じて、[東京大学（1986年卒業）]

おわりに

このような機会にこだわりのあるピアノ弾きとその仲間たちが集まって演奏会を開くことができ、これは大変喜ばしいことだと思っております。今後とも、本演奏会のために立ち上げたホームページ上に音楽に「こだわり」のある仲間たちの交流ができるようにしていきたいと思っておりますので、興味を持たれた方は是非以下のホームページへお越しください。

<http://concert.messages.to/>

本日はお忙しい中お越しいただきありがとうございました。（出演者一同）

Special Thanks To...

スタッフ（敬称略）

企画者：	光山奈保子
責任者：	松林伸生
チラシ作成：	吉川恵太、石藤紀子
HP作成：	田中博幸
プログラム：	田中博幸、吉川恵太、津原和典
当日スタッフ：	出演者一同